

第4回 ひらつか地域づくり市民大学

報告書



第4回ひらつか地域づくり市民大学報告書発行に寄せて

ひらつか地域づくり市民大学は、これまで行政頼みで行ってきた地域づくりを、そこに住む住民の皆さん自らの手で行っていくための学び合いの場として開催しています。今年度もたくさんの受講生に参加していただき、実り多き学びの場となりました。関係者各機関の皆さんのご協力に心より感謝申し上げます。

発行：2017年3月

発行者：特定非営利活動法人 湘南NPOサポートセンター

企画・執筆：坂田美保子 坂本著法

デザイン・編集：氏家真美

監修：鈴木奏到

協力：平塚市協働推進課 平塚市福祉総務課 平塚市中央公民館

特定非営利活動法人
 湘南NPOサポートセンター

〒259-1517 平塚市長持568-5

URL <http://snposc.org>

e-mail shonan@snposc.org

特定非営利活動法人
 湘南NPOサポートセンター

本書は平成28年度、平塚市協働推進課、平塚市中央公民館、平塚市福祉総務課、NPO法人湘南NPOサポートセンターが協働して実施した「第4回ひらつか地域づくり市民大学」の報告書です。



自分たちの住むまちを「住んで良かった」と思えるまちにしたい。そんな思いを持つ人々と話し合い、実践し行動する人をもっともっと増やしていきたい。「ひらつか地域づくり市民大学」は、地域活動の担い手づくり、課題解決のためのノウハウを学んでいただく学び合いの場として、平成25年度から開校しています。

4回目となる「ひらつか地域づくり市民大学」は、これまでの3年間を踏まえ、まち全体を俯瞰して見ることの重要性や連携・協働のポイントが学べる内容で実施しました。

公開講座では東海大学工学部の梶田教授から平塚の戦後の復興まちづくりの様子と現在の状況、近未来を見据えた市民協働のまちづくりの必要性を説いていただきました。

基礎編は持続可能な地域づくりの原点と、平塚で展開されている事例（馬入水辺の楽校の会、河内川あじさいの会）から連携協働のポイントを学びました。

応用編では、課題を設定し、課題解決に向けてどのような人や組織と連携するか、制度や資金をどのように活用するか、まわりを巻き込むにはどのような策が有効か、など地域コーディネーターとして必要な知識をワークショップを通して学びました。

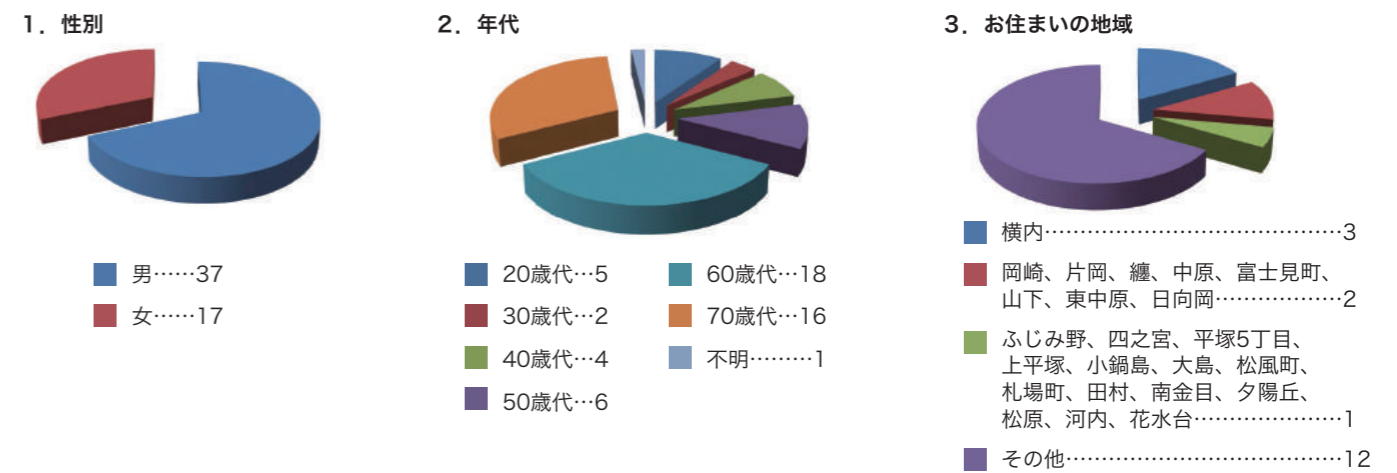
最終回では、まちづくりプランナーのコーディネートによって引き出された受講生の知恵と工夫が、夢いっぱいのもちづくりプランとなって発表されました。

本講座での学びを、それぞれの地域コミュニティで活かしてくださることを期待しています。



公開講座	7月24日(日)13:30~16:30	ひらつか市民活動センター	参加者80名
講演：平塚の地域づくり 過去・現在・未来を考える ～なぜ地域づくりが必要か～			
講師：梶田 佳孝氏（東海大学工学部土木工学科教授）			
対談：平塚の未来まちづくりを語る			
登壇者：鈴木 奏到氏（一般財団法人計量計画研究所理事兼研究部長）			
櫻井 雅之氏（湘南ジャーナル編集長）			
沼田 繁氏（タウンニュース平塚編集室編集長）			
モデレーター：梶田 佳孝氏			

公開講座の参加状況



基礎編 第1回	8月27日(土)13:30~16:30	ひらつか市民活動センター	参加者18名
地域づくりの担い手とは			
講師：鈴木 奏到氏			
基礎編 第2回	9月17日(土)10:00~15:00	相模リバーセンター	参加者9名
事例から学ぶまち歩き(1) ～馬入水辺の楽校の会の取り組み～			
ゲスト：馬入水辺の楽校の会 白井勝之会長、会の皆さん			
基礎編 第3回	10月15日(土)10:00~15:00	旭北公民館	参加者18名
事例から学ぶまち歩き(2) ～河内川あじさいの会の取り組み～			
ゲスト：河内川あじさいの会 石井豊会長、会の皆さん			
応用編 第1回	11月5日(土)13:30~17:00	ひらつか市民活動センター	参加者14名
地域課題を紐解く目標を立ててみよう			
講師：内山 征氏（都市プランナー ㈱アルメック国内事業本部主任研究員）			
応用編 第2回	11月26日(土)13:30~17:00	ひらつか市民活動センター	参加者10名
目標を達成する進め方・プランを考えてみよう			
講師：三浦 由理氏（まちづくりコーディネーター、㈱ナレッジトラスト代表）			
応用編 第3回	12月10日(土)13:30~17:00	ひらつか市民活動センター	参加者13名
解決プランを語り合おう 修了式			
講師：鈴木 奏到氏			

【公開講座】平塚の地域づくり 過去・現在・未来を考える

7月24日(日)13:30~16:30

基調講演「平塚の地域づくり 過去・現在・未来を考える」と対談「平塚の未来まちづくりを語る」の2部形式にて開催しました。

公開講座開会に当たり、落合市長から平成28年2月に策定された、平塚市総合計画(ひらつかNEXT)についての紹介と市民協働によるまちづくりの必要性を受講生の皆さんへの応援メッセージとともにご挨拶いただきました。



梶田先生のご講演も熱心に耳を傾けられていました

基調講演

東海大学工学部土木工学科梶田教授の基調講演「平塚の地域づくり 過去・現在・未来を考える」では、平塚の震災後の復興まちづくりがどのように行われ、現在に至ったかその経緯を、データを元に詳しく説明していただきました。



まちづくりはそのまちの歴史を知ることが重要です。

梶田先生は、都市計画・交通計画が専門であることから、科学的手法を用いた総合的なまちづくりの考え方、市民との協働について実践事例を元にご紹介いただきました。

対談

対談では、まず鈴木さんから都市まちづくり・交通網などの観点から20年・30年先の未来を予測した地域づくりが重要であること。地域メディアの櫻井さん、沼田さんからは市内の地域づくりについて、取材を通して感じたことを紹介していただきました。未来へ向けて今私たちは何をすることが求められているか、についても意見交換を行いました。



平塚の地域づくりの未来に向けて語り合う登壇者の皆さん

会場からの質問も多数紹介し、それぞれのお立場から回答をいただくなど、とても深い意見交換となりました。



参加者の声 (一部抜粋)

- 平塚市の歴史をいろいろ聞くことが出来た。休田、休畑を子供達と一緒に育てる会はおもしろい。臨時神奈中バスを走らせ、収穫祭で盛り上げることも出来るのでは。
- 平塚の魅力はまだたくさん眠っていると思います。ただしそれを活かすには、お金は期待できません。結局は柔軟な発想と情報化の活用だと思います。
- 「一人ひとりに出来ること」を梶田先生がおっしゃいましたが、先生のご講演、皆さんの対話、対談と進む中で一緒に考えさせていただく事となりました。自分なりにヒントが見えてきたような気がします。
- 平塚について良く知ることが出来ました。また、東海大の取り組みを知ることが出来て良かったです。大学生のパワーを何とかかかせるように、今後も勉強していきたいです。
- 平塚全体の人口増という観点はより切実、つまり東京まで通勤しやすい(平塚始発を増やす)とか、保育園が入りやすいとか、個人の利害という行政レベルでのアピールも重要かと思います(理想と現実のはざま)楽しかったです、ありがとうございました。

【基礎編1】地域づくりの担い手とは

8月27日(土)13:30~16:30

基礎編1回目は、平塚市がどのような計画でまちづくりを進めているか、その現状と地域づくりのポイントについて鈴木さんより解説していただきました。

平塚市の現状と国の政策



鈴木 奏到 氏

ここ平塚市も他都市同様少子高齢化が進んでおり、まずは現状把握として「平塚市の人口動向」が紹介されました。人口ピークは平成22年(2010年)が260,780人、以後減少が続き平塚市総合計画(ひらつかNEXT)による将来人口推計(国立社会保障・人口問題研究所の推計)では、平成52年22.6万人、平成72年18.1万人と報告されています。18.1万人は昭和48年(1973年)当時の人口で、今から40数年前の人口と同じです。

これらに対応するために国は「地方創生戦略」と「コンパクト+ネットワーク」を推進しています。地方創生推進交付金は、年1000億円の予算が各種事業に振り分けられているとの説明があり、その後神奈川県下の事例が紹介されました。

平塚市の地域づくりの方向

平塚市総合計画(ひらつかNEXT)では、「子や孫へたしかな平塚をつなぐ」ことをまちづくりの指針とし、「選ばれるまち・住み続けるまち」の実現を目指しています。

【4つのまちづくり】

- ・豊かな心と文化をはぐくむまちづくり
- ・安心して暮らせる支え合いのまちづくり
- ・自然と人が共生するまちづくり
- ・活力とにぎわいのあるまちづくり



持続可能な地域をつくるための原点 「まちづくりはひとづくり」

●ひとづくりのテーマと具体的対応

- ・多様な人材/仲間を増やす
⇒世代間を越えたつながりの連携。地域外との交流
- ・資源の賢い活かし方、使い方
⇒遊休施設の再生、再活用。地域デビューのきっかけ
- ・前例にとらわれない、挑戦するマインド
⇒負の継承を断ち切る規制緩和。新たな事業制度の活用
- ・自主性を持った多機能な地域運営組織化
⇒地域住民自らが知恵を出し行動する。
課題解決事業を行う

●地域づくりのリーダーに求められる4つの力

1. 活動を企画立案する力
2. 活動を運営する力
3. 巻き込み力
4. つながり力

つながりの再構築

1. 団体/組織間のつながり
年功や実績にこだわらないフラットな関係を共有しよう
2. 世代を越えた役割のつながり
さまざまな世代の力を活かしていこう
3. 組織の役割のつながり

グループ討議

テーマ：「地域の遊休地/空き施設の活用」



参加者の声 (一部抜粋)

- 地域でできることから行動したい。
- どうなるかと思ったが、ワークショップの意見交換も楽しかったです。
- 講義はわかりやすかった。
- 地域のみなさまと意見交換ができ良かったです。
- 多様な方々が集って検討等を行っていく為とめが大変です。もう少し時間が欲しいです。

【基礎編2】事例から学ぶまち歩き(1) ～馬入水辺の楽校の会の取り組み～

9月17日(土)10:00～15:00

昭和45年頃の相模川河口は、潮が引くと5haほどの干潟が出来、シギやチドリ等の飛来地でしたが、その後はヘドロの集積・不法投棄によって急激に環境悪化が進み、地域住民にとっては悩みの種でした。そこで市民や市民団体が集まり、川の自然と触れ合う場をつくりたいと自然環境を復元しました。都市住民や子ども達の自然離れを止めるため、多様な環境学習活動を展開しているのが馬入水辺の楽校の会の皆さんです。官・民・学との連携力を活かし精力的に事業を拡大・展開しています。

基礎編1回目は、その活動内容を知るために現地を訪れ、白井会長及び会の皆さんから詳しい活動のようすを聞きました。

馬入公園入り口からお花畑を抜けた先が活動の現場です。シンボルのイエローテール(風車)に向かって参加者一同まち歩きを開始しました。



8月6日に市民参加で作ったトンボ池。9月3日にはシオカラトンボが産卵、ウスバキトンボのヤゴも見つかりました。



川での遊びは救命具を装着、魚やエビ、カニを探したり、時には救助訓練などもするそうです。



川向うは茅ヶ崎市。普段は静かな河口でも、台風や暴風雨時は水かさが増し危険区域になります。

まち歩きのと、会場をリバーセンターへ移し、白井会長から活動を継続する上で必要な仲間づくり・水平展開のコツ、国・県・市との協働、助成金の申請と活用、今後の抱負などを伺いました。

地域づくりのポイント

●仲間づくり

- ① 人間関係が活動の基本…信頼できる友人をつくる
- ② コアメンバーの他に専門知識を有する人材を確保
- ③ 遊び心を持ち、若者を多く取り込む
- ④ 辛抱強く失敗を恐れない

●水平展開

- ① 他団体の事例を学ぶ、真似をする
- ② 人から人へ楽しさを共有する
- ③ 多くの人が必要とする事業をすれば
自ずと広がってくる

●公民連携・協働

- ① winwinの対等な関係を構築する
- ② それぞれできるコトを持ち寄る

●助成金の活用

- ① 申請のコツは企画力にあり
- ② 助成元の目的にあった事業計画づくり
- ③ 事業をつくることで助成金も降りてくる
- ④ 助成金はNPO法人には門が開かれ、
任意団体には狭い

今後の抱負

自然は戻ったが子どもたちが戻ってこない・・・

相模川の環境保全や自然との触れ合える場づくりに取り組み自然を取り戻したが、子どもたちが戻って来ない。子どもの約半数は自然との触れ合いが全くない(平成21年調査結果)という現状を憂い「子ども達の遊び声が聞こえる楽校づくり」を目標に活動を展開予定。

NPO法人化へ

運営強化を図るため「NPO法人暮らし/つながる森里川海」を平成29年春設立を目指しているそうです。



馬入水辺の楽校の会のみなさんもワークショップに知り組んでいただきました。

馬入水辺の楽校の会の活動から学んだこと

ワークショップでは活動の現場を歩いてみて感じたことや、会長の白井さんから活動の内容をお聞きして感じたことを踏まえ、以下の4つのテーマに沿って意見交換しグループごとに発表しました。

- ・仲間づくりの方法から学んだこと
- ・他団体との連携によって活動がどう広がっていったか
- ・行政との連携の方法について
- ・助成金の活用について



活動を継続する難しさを学びました。



馬入水辺の楽校の会 会長の白井さん 活動に寄せる思いは他の誰よりも強い。継続の秘訣は子どもたちに寄せる「思い」だ。



もっとたくさんの子どもたちに参加して欲しいと思いました。

仲間づくり

- ・仲間が仲間をつれてくる
- ・信頼できる友人をつくる
- ・若者を多く取り込む
- ・難しく考えないで遊び心で仲間を増やす
- ・親子、若い世代への共感・共有
- ・広報活動を活発に
- ・コアメンバーの他に専門的に担当する人材の育成確保
- ・参加者にも準備の段階から関わってもらうことで「お客さん」から「当事者」へ変化させることは大切な一歩だと思う

水平展開

- ・他団体の事例を学ぶ・マネをする地域交流会の実施
- ・若い人など色々な人とつながること、農協の人や漁協の人などと繋がる可能性が高い
- ・楽しめること、興味を持てることをやれば、人を集めることは出来る
- ・イベントなどに人を集めることは出来ても、継続する運営をしていくのは難しい
- ・人から人へ楽しさの共有をすることで参加者は「参加したい」という気持ちで増えている

行政との連携

- ・行政との関係作りは担当との人間関係を密に
- ・アイデアプランの提案力
- ・夢を具体的なアイデアとして提示することで、関係部局とのうまい連携ができています
- ・活動報告を見える化して行政へアピール

助成金の活用

- ・助成金申請の企画力を学ぶ、身に付ける方策を修得したい
- ・助成金制度活用には、それぞれ個別の工程をたてなければならない

受講生の声 (一部抜粋)

○前回は、休んでしまいましたが、ワークショップに参加できて本当によかったと思います。今後も学びせていただきたいと思っています。

○若い人の参加が多数ありうれしく思った。ひらつか地域づくり市民大学に期待している。

○また馬入に来たいと思いました。

○とても良い活動だと思いました。法人化がんばってください。

【基礎編3】事例から学ぶまち歩き(2) ～河内川あじさいの会の取り組み～

10月15日(土)10:00～15:00

河内川は、昭和40年頃から急激な環境悪化で悪臭を放っていました。地域の美化推進委員が集まり、子どもが遊べる川に戻したいとの思いから、川の清掃を始めました。活動のきっかけと、組織と組織、人と人のつながりについて、お話を伺いました。

活動の歴史と取り組みの概要

旭北公民館に集合し、まち歩きの順路について説明を受けた後、河内川沿いを歩きながら、会の皆さんから草刈りの様子・あじさいの手入れ方法・地域との連携について伺いました。旭南公民館に到着後は来た道を折り返し西部福祉会館内に設置された旭北町内福祉村に移動、閉室日にもかかわらずカフェを開いていたので、日頃の活動内容について紹介を受けました。



まち歩きスタートです。河内川の両側を往復し、まちの様子を観察しました。



草刈りの様子



クリーン作戦の様子

あじさいや地域について説明をする石井さん。以前より川はきれいになったが、不法投棄は減らないそうです。



福祉村でちょっと一息。美味しいコーヒーをいただきながら、小澤村長から活動の様子をお話いただきました。

あじさいを植樹し清流を取り戻し、アユやカワセミが確認されるまでの活動のご苦勞を石井会長より伺いました。

河内川は、神奈川県管理の二級河川と平塚市管理の準用河川、農業用水路で構成されます。昭和40年代になると、旭地区の宅地化が急速に進み生活排水の流入や自転車やごみの不法投棄で、河内川はどぶ川となりました。

旭北美化推進委員会が中心となって「昔の川に戻したい」「子ども達が中に入って遊べる川にしたい」と清掃運動を始めたが、いっこうに改善されず限界を感じていたそうです。

その後、発想を転換「ごみが捨てられない環境」に変えるため「あじさい」を植えたいと、平塚市と神奈川県と2年間にわたって相談・交渉した結果、維持管理を条件に認可がおりました。あじさいは「それほど大きくならず群生すると綺麗で手間がかからない」という特徴を持つ植物で、平成4年から堤防に植えました。



水量が少なく水質が悪いため、河川管理者の神奈川県や平塚市、広川水利組合と協議し、金目川に平成15年広川取水口を設け、常に水が流れ水質が改善されました。

平成17年に第1回「河内川あじさいまつり」を始め、平成28年は約3,000人の来訪者がありました。



あじさい祭りの様子

あじさいの会の活動から学んだこと

●地域づくりのポイント

・つながりの再構築が上手くいったところが前に進む

- ① 「関連団体(組織)」間のつながり
- ② 「世代」を超えた役割のつながり
- ③ 実行力ある組織の「役回り」のつながり

・地域づくりには「人」「金」「仕組み」が必要

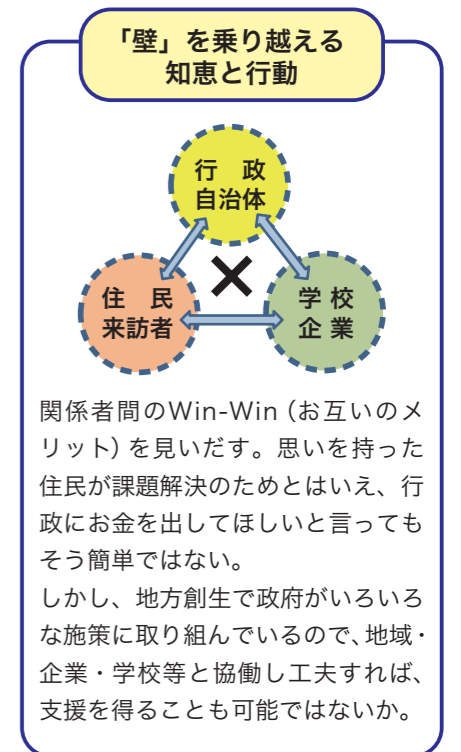
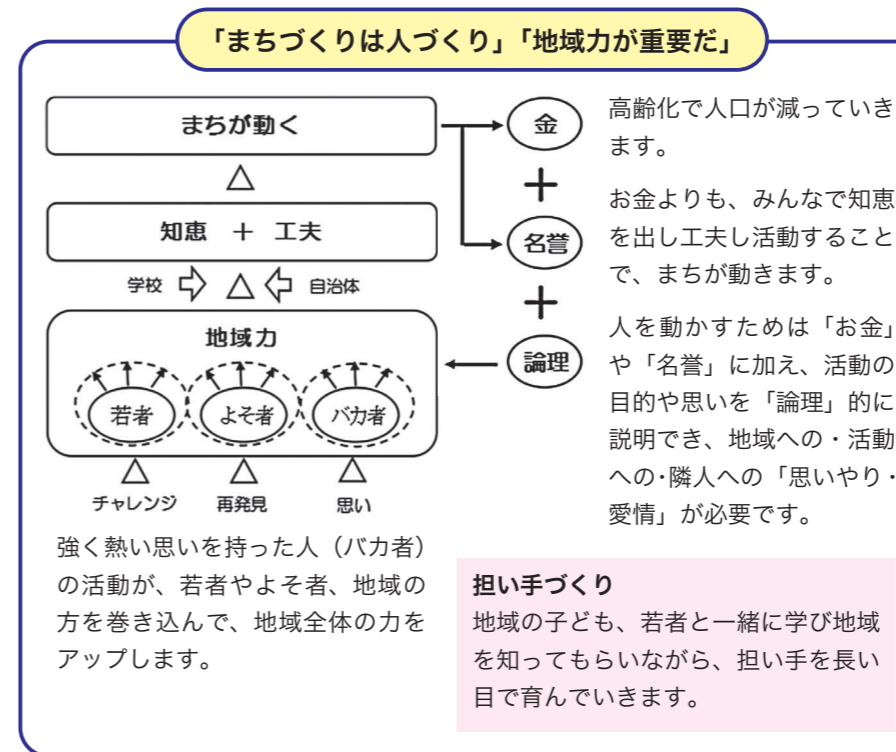
- ① 活動の時期に応じて取り組む
- ② 「仲間をつくる」から始め、活動のステージに合わせて目標を設定する



石井 豊 会長



最後に、アドバイザーの鈴木氏より、地域づくりの重要なポイントを整理していただきました。



受講生の声(一部抜粋)

- 皆さんの苦勞が良く分かりました。
- 平塚市、神奈川県の関係行政部署・部門などの支援・協力を期待します。
- 河内川あじさいの会(川をきれいに)の推進にとっても役立ったと思います。
- 私が地域で出来ることを1つ1つ確実にやっけていこうと思っています。

【応用編1】地域課題を紐解く

11月5日(土)13:30~17:00

応用編第1回目は3名の講師の皆さんにご参加いただき、応用編の目的と意義、まちづくりの手法や具体的な計画・目標の立て方についてご説明いただきました。また、基礎編で学んだ「まちづくりは人づくり」「つながりの再構築」「壁を乗り越える知恵と行動」を、計画づくりの参考にするために全員で振り返りました。

まちづくりについて ~プランづくりに挑戦する~ (内山 氏)

●まちづくりを分類する

- 自**…個人で取り組む個人の活動、庭の手入れなど
- 公**…市役所が進める都市計画、まちづくり、道路整備など
- 共**…地域の住民が協力して進めるハード、ソフトの活動



内山 征氏

●「共」のまちづくりが求められる時代

財政が厳しくなると行政に全てのサービスを求められなくなる。より高い生活のしやすさを、住民・NPO・行政・大学・コンサルなど様々な主体が協力し実現する。



ワークショップで各班にアドバイスする内山氏

まちづくりの事例紹介

●「笠間市」商店街の活性化・街並みづくり

平成24年笠間市は商店街活性化したいと、アスファルト道路を地産の御影石で整備する案を、住民にデザイン検討依頼しまちづくりが始まりました。

住民が提案したデザインで御影石を使用した道路が建設され、これがキッカケとなり「共」のまちづくり活動（街並みを整備、社会実験、笠間朱色を増やす活動など）が活発化しています。



整備された笠間市の道路

SWOT分析とは・・・

組織や地域を、「強み(Strength)」「弱み(Weakness)」「機会(Opportunity)」「脅威(Threat)」の頭文字をとって、4つの軸から評価する手法のこと。

- S 強み**：自社(地域)の武器
 - W 弱み**：自社(地域)の苦手なこと
 - O 機会**：自社(地域)のチャンスとなる外部要因
 - T 脅威**：自社(地域)を脅かす外部要因
- 地域づくりのプランを立てる時は、SWOT分析を利用し整理して考えると目的がぶれにくく、明確になります。
- どのように強みを活かすか？
 - どのように弱みを克服するか？
 - どのように機会を利用するか？
 - どのように脅威を取り除く、または脅威から身を守るか？
- 平塚のまちづくりを考える時の参考にしてみると良いでしょう。

例えば・・・

	内部環境(コントロール可)	外部環境(コントロール不可)
プラス要因	<p>強み S</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温暖な気候 ・公的施設が充実しているetc 	<p>機会 O</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京五輪が目前
マイナス要因	<p>弱み W</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知名度やブランド力が低い 	<p>脅威 T</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化 ・中心市街地の空き店舗増加



SWOT分析について実際に行われた笠間市の街並みづくりを例に、わかりやすく解説していただきました。

ワークショップではプランづくりの進め方として「2020年の東京オリンピックが開催される機会を平塚市としてどう生かすか」をテーマに設定し、意見交換しました。

参加者の発表から

- ・整理したことで課題が分かり易くなり、数多くの地域の資源を発見し「目標」を設定することが出来た。
- ・1班は「オリンピックを機会に強みのバスの充実と自転車と融合の街づくり」と目標を設定することが出来た。

ワンポイント

- ・まちの課題をSWOT整理で分析し、活動目標を設定しよう

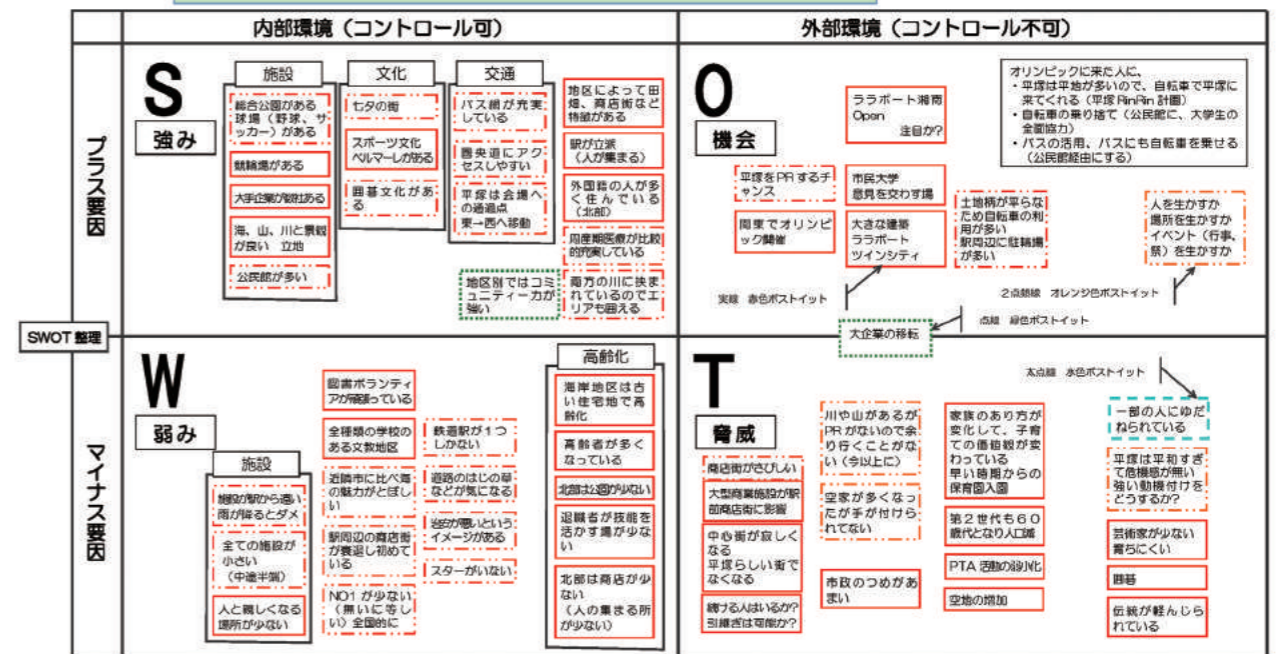


ひらつか地域づくり市民大学(応用編第1回)WS

お題 オリンピックをどう生かすか

地域課題を紐解く「目標を立ててみよう」
「地域の特性を生かした課題の見つけ方と計画の立て方〜事例を通して〜」

課題 駅から離れた施設に人を集める為に



目標 オリンピックを機会に強みのバスの充実と自転車(競輪場もあるので)と融合の街づくり

(1班) 江川誠、清水美恵、清水浩三、鈴木衣乃里、石川真貴、谷田部

受講生の声(一部抜粋)

- 平塚の長所、短所が良く理解できた。これからどのようにこれを展開するか楽しみ。
- 想定外の意見、初めての言葉、あらためて平塚を考える機会となった。
- 平塚愛にあふれた提案が多かったことがうれしかったです。
- 第1回目から感じている事であるが、「地域づくり」又は「活性化」、「再生」などを、もっと多くの住民に強い動機付けをするにはどうしたらいいのだろうか？

【応用編2】目標を達成する進め方

11月26日(土)13:30~17:00

応用編2回目は、SWOT分析した結果をもとにまちづくりプランの立て方について学びました。講師の三浦さんから

① 自慢したくなる資源を発見してみよう

② 平塚に繰り返し来てもらえるような情報発信をしよう

③ ちょっと頑張れば達成できるプランづくり

④ みんなが参加できるものが、重要なポイントであることをご説明いただきました。



三浦 由理氏

プランづくりの留意点

「まちづくりは未来への贈り物」と捉え、未来に託すつもりで企画を立てる。

●プランに名前をつけよう

グループの意気込みを伝えるため、思いを多くの人に伝えるために、魅力的な名前をつけ大いにPRしよう。

●プランは誰への贈り物か

自分たちのまちに誇りを持ってプランを立てよう。「未来の子どもたちのために」と想像しながら考えると楽しさが倍増します。



●実現のための計画を創る

どこでやる？(空間・場所)、何をやる？

初級編：まち歩きプランで〇〇を発見

(例)七福神めぐりで美味しいレストランを発見

中級編：名所で新しいイベントを起す

(例)美術館でワークショップを開催

上級編：何でもない日常の当たり前の場所で新しい「ムーブメント」を起す

(例)東京大田区の「おたオープンファクトリー」工場を開放して見学や体験ができるイベントを開催している。町工場、観光協会、大学、住民等ボランティアが中心に行われる。

超上級編：「ムーブメント」を繋ぐ

(例)まちのさまざまな資源をアートでつなぐ
鶴岡市は食、食材を中心として「食文化創造都市推進事業」でユネスコ創造都市ネットワーク(食文化部門)の加盟が認められた都市づくりを行っている。

●計画を実現するための具体的な全ての課題を洗い出す

お金：何をするための資金がどの位必要か

人：何をするか、人数は

場所：どのような条件の場所なのか

知恵：知恵が課題なら計画はハードルが高すぎます、考え直しましょう。

知識・技術：どんな専門知識や技術が必要か具体的に出示します。

行政の協力：どんな協力を求めるのか具体的に考え、あまりアテにするのは止めましょう。

ワンポイント

・ワークショップでいろいろなアイデアを出し、新しいプランをつくります。



受講生の声(一部抜粋)

- 今日話し合ったことが現実に行われていく状況がつかめない。色々課題が多いことだと思う。
- 中途になってしまい心残りなのですが、楽しい体験でした。ありがとうございました。
- 自転車道の拡充、盲人用点字ブロックの整備拡充、サイクリング道路の整備拡充等、行政への要望が多々あります。どのように行動すべきかがよく分かりません。

プラン作りのワークショップ発表

1班 平塚RinRin タウン計画

平塚の過去・現在・未来を県外・市外の方ももちろん、平塚の子ども達にもバス・自転車を使って地域の魅力を再発見し、まちをもっと知ってもらいたい。乗り降り自由の自転車レンタルサイクル制度を活用したプランを考えてみたい。



3班 体験型民泊(仮)

体験型民泊は、平塚のまちの特色を活かし、例えば「農業」「工業」「教育」と「宿泊」「空き家」「空き団地」を自由に組み合わせるなど、独自のルートプランを作っても面白い。



5班 春・花・秋・冬水のみちプロジェクト

平塚市は外側からみると特色がわかりにくいですが、たくさん川があり、花のスポットが至るところにあり、野鳥がいて撮影スポットもたくさんある。七夕のイメージが強いが川沿いを拠点に四季を楽しむプランを考えてみたい。



2班 オールマイティー平塚

スポーツを通じて健康増進を図る。平塚市民が自らスポーツを楽しむことでオリンピックにつなげたい。スポーツフェスティバルを充実させ、平塚を盛り上げたい。(例)1000面のストリートテニスなど。



4班 I have a PPAP ~子どもと共に~

平塚は自然が豊かであることが知られていない。また特色ある文化施設があまり活かされていない。という現状を紐解き、「子育て世代を元気にする街」を目標にプランを立ててみたい。



6班 オリンピックを地域で応援プロジェクト

平塚市の26公民館を拠点に、それぞれで国を選びオリンピックを応援する。国の紹介や文化や食事など情報を提供し、地域の中の活性化を。東海大学や神奈川大学等への留学生との繋がりを作りたい。



【応用編3】解決プランを語り合おう 修了式

12月10日(土)13:30~17:00

応用編3回目(ひらつか地域づくり市民大学最終回)は、「プランを語る~実践に向けて~」これまで各グループで話し合ってきたことを踏まえ、関係各部署との連携、制度・人材の活用を盛り込みながら事業計画を作成し発表しました。

受講生は前回出された宿題を持ち寄り

1. 目的を設定し
2. いつ・誰と
3. 何を・どのように
4. 連携機関・団体とどのような関係性をつくっていくか

などコーディネーターとして必要な知識を活かした計画づくりです。「平塚をもっと知ってもらいたい、みんなが住みやすいまちにするにはどうしたらいいだろう!」そんな思いを持って事業のプランを作りました。準備が整ったところで、グループごとに発表しました。



1班と2班は急遽合同チームで発表する事になり、これまでの情報を整理し発表に向けてプランを再構築しました。



最終回のこの日はお菓子をつまみながら、発表会に向けての最終チェックを確認する3班の面々。



各班ごとに的確なアドバイスをしてくださる三浦 由理氏

コーディネーターはダンドリスト(段取りすど)である

最後に鈴木アドバイザーから何かをする時は、すべてにおいて段取りが必要で、その段取りをする人がコーディネーターなのではないか、地域づくりの担い手としてのコーディネーターの心得について説明していただきました。



都市計画プランナー
鈴木 奏到氏

最終回は、修了証が市民部長より授与されました。



受講生の声(一部抜粋)

- 全回出席したかったのですが、都合で欠席せざるを得ない状況でしたので、後悔もありますが、平塚のことを考える方がたくさんいらしゃったのが印象的でした。私は30代ですが、行政以外の同年代の方が、もっと積極的に考えるきっかけをつくっていただきたいと思います。
- とても勉強になった。平塚の知らないところがたくさんあった。
- 全員の思考を同一方向とするのが難しいことがわかりました。この経験を活かしていきたいです。
- 民泊は実現すると楽しいと思う。
- リーダーシップを取ってくれるメンバーがいたので、まとまりのあるチームになり楽しく発表できた。

プラン作りのワークショップ発表

1・2班合同 平塚RinRin タウン計画

平坦な地域が多い平塚の特徴を活かした自転車の活用プランです。サイクリング愛好の方から熱い思いが伝わってきました。里山や田植えなど体験と組み合わせた楽しいサイクリングです。



4班 バラの街づくり平塚プロジェクト

文化施設が活かされていないという課題を解決するために、農業・観光関係者、及び企業等と幅広く協働して、県内でも有数のバラの産地である平塚の「バラ」を活かした観光プランを提案します。



6班 オリンピックを地域で応援プロジェクト

オリンピック開催のチャンスを活かして、平塚の特色でもある公民館を活用し、平塚を訪ねてもらい、知ってもらう取り組みを企画。人口減少に歯止めをかけた。(*このグループは平塚市職員によるチームです)



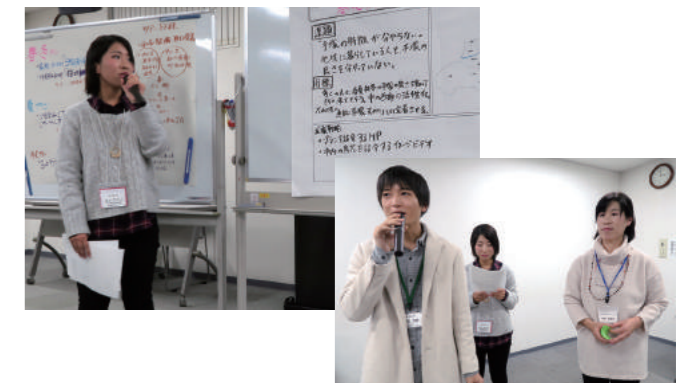
3班 体験型民泊

食・工場・農業・里山など数多くの魅力的な素材を活かした体験型民泊プログラムをつくり、たくさんの方に平塚を訪れていただき、平塚のファンを増やしたい。



5班 春・花・秋・冬の川プロジェクト

平塚の川・花・野鳥の魅力を活かすための観光プランです。春・冬は家族向け「湘南平で天体観測」、外国人向け「桜のトンネルウォーキング」。夏は若い人向けに「湘南平ロマンチックナイト」、秋はシニア向け「バラ鑑賞ツアー」を計画しました。



応用編では

SWOT分析の手法、他団体との連携協働、今ある資源を使って考える、などを学ぶことができました。また、学びを活かして「平塚の魅力発見まちづくり」を実践するためのより具体的なプランをつくりあげることができました。

